

平家の里の湯西川温泉・前山(1001m)スノーシュー

(報告) Aka

◎日程： 2017年1月25~26日

◎メンバー： Aka(L)、Oh、Oka、Sachi、Mitsu、Tsuk、Nish、Hagi、Fru

日本の登山界にスノーシューが紹介されたのは90年代初めの事で、当時は西洋カンジキと呼ばれあまりピンとこなかったものだが、業界の宣伝が巧かった事もあり2000年代に入ると急速に販路を拓けた。都岳連遭対がスノーシューに注目し2004年2月の「冬山講習会」で「スノーシューは山で使えるか？使えるタイプは？」と各社のスノーシューを履き比べていたが、都岳連個人会員ではそれに先立ちIwaさんの指導の下に2002年3月初めに慶応・吾妻山荘周辺にてスノーシュー山行が実施され、参加した私は、これは面白いと思った。日本のワカンはラッセルという深雪対策には無くてはならない必需品で実用第1であるのに比しスノーシューはラッセル機能を有する上に雪と戯れるお遊びの道具、今やスキーを凌いで若者の心を捉えているスノーボードといい西洋人の遊び心には感服したものだ。勤勉なる日本人には考えつかないもので、私は帰宅早々にスノーシューを購入した。

という訳でわがスノーシュー歴も早15年、漸く何とか使いこなせるようになったのだが、今度は体力がついていけなくなり目指す山が限られてきた。スノーシューの適地は高峰高原とか北八ヶ岳とかのただっ広い見晴らしのいい高原が一番で、東京近辺ではそういう場所は限られてくる。毎回同じ山というのも芸がないのでこの数年恒例のスノーシュー山行で真っ先に悩むのは、今年はどこに行こうかなのである。

本年のスノーシュー山行第1弾は奥塩原・前黒山と湯西川温泉・前山とした。前黒山は高原山の北側に位置し、ハンターマウンテンのスキーゴンドラを利用すれば容易に行けると踏んだのだが甘かった。スキー客以外の利用お断りと乗車拒否され、やむなく日塩もみじラインの道路脇に駐車し、林道沿いに歩き出したのだが時間切れとなり途中で引き返さざるを得ない事になった。天気は良くまっさらの新雪、スノーシュー山行に相応しい環境だったのだが、歩き出しが12時半とあまりに遅すぎた。潔く諦めて電車で宿に先行しているOkaさん、Nishさんが待ちわびている湯西川温泉へと急ぐ。紀行作家岡田喜秋氏によれば、世に平家の落人部落と称する山里多々ある中で湯西川は正真正銘本物であるらしい。平家の落武者平忠実の一統200名は途中何度もの小競り合いを経て最後はわずか40名となりこの地に辿り着き、正体を隠す為に平の字を分解して「人偏」をつけて「伴」という名字を名乗ったと記している(「山村を歩く」岡田喜秋(河出文庫))。現存するホテル「本家伴久」は25代目を継承しているという。我々の宿は「平家本陣」、おおるりグループに属し6,900円という安価が嬉しい。食事もバイキングではなくまずまず、温泉も良かった。

前山はホテルの丁度裏側、翌朝8時半、車はホテルにそのまま置かせてもらいスノーシューかかえて登山口へ向かう。今日も風もなくいい天気、リフトも無い小さなスキー場前でスノーシューを履き、踏み跡も無い新雪踏んで村道沿いに歩き出す。ツボ足なら身体半分埋まってしまうような新雪だがスノーシューなら足首迄沈むだけ、トップは今年初めてのスノーシューの感触を堪能しているようだ。10分程で登山口に着き、杉の植林帯へと踏み込む。



(雪を被った前山登山案内標識)



(新雪を掻き分けて進む強力女性ラッセル車)

最初は緩やかだったがアドバンスルートへと歩みを進めると、傾斜がきつくなり深雪の中のジグザグと折れまがる急登で難行苦行、トップはルートファインディングしながらのラッセルに四苦八苦、滑ったら杉の大木に激突間違いないし、距離は短かったが肝を冷やした。何とか尾根に辿り着くと、一気に見晴らしが開け湯西川温泉街が一望、トンネルが整備され道路を通じる前の奥深い山里に思いをはせた。

宿泊したホテル「平家本陣」を眼下に見下ろし暫し休憩する。そこから先は緩やかな尾根歩きとなり11時丁度小ピークに到着。此处が頂上だったら良かったのだが、生憎此处は前山の前山で先程の杉林での急登で疲れた者はここまでとし、全員集合で写真を撮り、希望者4名が頂上を目指した。見た目よりも楽勝で11時25分、前山頂上着、歩き始めて2時間25分もかかった。前年5月、無雪期に登った時は登山口から45分だったのだから随分違うものだ。下りは登ってきた踏み跡を辿り何度か転ぶ者も出たが慎重に下り登山口まで1時間、さすがに下りは早かった。この時期には稀な良い天気恵まれ、まずは怪我もなく無事下山出来たのは何よりだったが、あの杉林の中の急登は我ら老媼、老爺にはチョットと苛酷だったかと少し反省し帰路についた。



(前山の前衛峰までは全員登頂⇒)

(←前山頂上へは元気印の4人が登頂)



「会員の山行リスト」に戻るには 画面最上部左端の 戻るボタン ← で 戻って下さい